

## 学位論文審査の結果の要旨

|            |   |
|------------|---|
| 1. 申請者氏名   | 別惣淳二  |
| 2. 審査委員    | 主査：（岡山大学教授） 渡邊 満<br>副主査：（岡山大学教授） 黒崎東洋郎<br>委員：（兵庫教育大学教授） 名須川知子<br>委員：（岡山大学教授） 高瀬 淳<br>委員：（岡山大学准教授） 熊谷慎之輔   |
| 3. 論文題目    | 教育実習カリキュラムによる資質能力形成の評価に関する研究<br>—兵庫教育大学の実地教育科目を事例にして—   |
| 4. 審査結果の要旨 | <p>論文提出による学位申請者 別惣淳二 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査 日時：平成28年1月27日(水) 15時00分～16時00分</p> <p>場所：岡山大学 教育学部本館 1階 146室</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>序章 問題の所在と研究の目的</p> <p>本研究では、兵庫教育大学の教育実習カリキュラムを取りあげ、①得意分野、個性を持った教員を養成するにあたって、2年次に事前指導として社会教育施設での観察・参加実習を経験させることが教員としての資質能力形成にどのような効果があるのか、また、自然体験活動の指導に求められる教員の資質能力を形成する上でどのような実習カリキュラムが必要になるのかを明らかにすること、②教員養成の質保証の観点から、養成段階で身につけるべき教員として最小限必要な資質能力を教員養成スタンダードとして同定し、1～4年次までの実地教育科目を通して実習生にその資質能力がどの程度身につけているのかを評価することによって、実地教育科目の成果と課題を明らかにするとともに、それを通して、学生の教員としての資質能力形成の評価の方法を開発することを目的としている。</p> <p>第1部 教育実習の事前指導としての自然体験活動への観察参加実習の意義と評価</p> <p>第1章 教員養成における自然体験活動への参加体験の意義と成果に関する研究動向</p> <p>教員養成における自然体験活動に関する研究動向を概観し、学生の自然体験活動への参加体験がその後の教育実習でどのような学びを生成し、卒業後の教育活動にどう生かされるのかを明らかにしていく必要性を指摘している。また、学校教育における自然体験活動に関する研究動向の概観を通して、教員の自然体験活動に関する研究があまりなく、なかでも自然体験の指導に必要な教員の資質能力を扱った研究はないことを指摘している。</p> |

また、学校教育における自然体験活動に関する研究動向の概観を通して、教員の自然体験活動に関する研究があまりなく、なかでも自然体験の指導に必要な教員の資質能力を扱った研究はないことを指摘した。教員の野外教育に関する資質能力を高めるために教員養成にどのようなカリキュラムを設定すべきかを研究することが課題であることを見出した。

## 第2章 自然体験活動への参加体験を取り入れた事前指導・観察参加実習の成果とその後の教育実習に及ぼす影響

兵庫教育大学の2年次生に実施している社会教育施設での自然体験活動の指導を取り入れた観察参加実習(実地教育Ⅱ)の成果を明らかにするために、実習生に質問紙調査を実施し、児童・生徒理解力の観点と実習前の教職志望度の観点から分析を行うと共に、縦断的調査によって実地教育Ⅱの経験がその後の主眼教育実習(実地教育ⅢとⅣ)にどのような影響を及ぼすのかを明らかにしている。さらに、実地教育Ⅱは、実習生に社会教育への関心を広げ、4年次生になっても社会教育での野外活動の指導に積極的に参加しようとする個性豊かな教師を創造する取り組みになっていることを明らかにしている。

## 第3章 自然体験活動の指導において教師に求められる資質能力と教育実習カリキュラム

兵庫県下の「自然学校」を受け入れている社会教育施設の指導者を対象に質問紙調査を実施し、自然体験活動の指導において教師に求められる資質能力の内実と、その資質能力を身につけるためには養成段階で大学にどのようなカリキュラムが必要になるのかを明らかにしている。この知見に基づいて、養成段階で教職志望学生に自然体験活動の指導に必要な資質能力を身につけさせるためには、教育実習カリキュラムにどのような課題があるのかを提言している。

## 第2部 教員養成スタンダードに基づく教育実習科目の評価

### 第4章 教員養成スタンダードに関する研究動向

養成段階で学生に身につけさせるべき教員として最小限必要な資質能力を示した教員養成スタンダードに関して、海外と国内での取り組み内容や研究動向を概観し、教員養成の質保証の観点から、教員養成スタンダードを用いた、教育実習科目による資質能力形成の評価研究がどの程度行われているのかを把握した上で、取り組むべき研究課題を指摘する。

### 第5章 小学校教員養成スタンダードに基づく実習到達規準と実地教育科目の評価

教員養成の質保証に向けて、小学校教員や大学教員に2段階の質問紙調査を実施し、小学校教員養成スタンダードを開発した。この小学校教員養成スタンダードを用いて、兵庫教育大学学部の実地教育科目の実習指導教諭に質問紙調査を実施し、実地教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの実習到達規準を策定し、その上で、実地教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの実習到達規準に基づき、各実地教育科目における資質能力形成について実習生に質問紙調査を行い、各実地教育科目での到達度評価による成果と実習生の学修課題を明らかにしている。

### 第6章 幼稚園教員養成スタンダードに基づく実習到達規準と実地教育科目の評価

教員養成の質保証に向けて、幼稚園教員や大学教員に2段階で質問紙調査を実施し、幼稚園教員養成スタンダードを開発し、この幼稚園教員養成スタンダードを用いて、兵庫教育大学学部の幼稚園教員養成に関わる実地教育科目の実習指導教諭に質問紙調査を実施し、実地教育Ⅰ・Ⅲ・Ⅳの実習到達規準を策定した。その上で、実地教育Ⅰ・Ⅲ・Ⅳの実習到達規準に基づき、各実地教育科目における資質能力形成について実習生に質問紙調査を行い、各実地教育科目での到達度評価による成果と実習生の学修課題を明らかにしている。

## 第7章 実習到達規準における資質能力形成に向けた実地教育科目への示唆

第5章で明らかにした小学校教員養成スタンダードに基づく実習到達規準からみた実地教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの成果と課題、及び第6章で明らかにした幼稚園教員養成スタンダードに基づく実習到達規準からみた実地教育Ⅰ・Ⅲ・Ⅳの成果と課題をもとに、小学校教員養成と幼稚園教員養成に係る各実地教育科目の改善点について提言している。

### 終章 まとめ—成果と今後の課題—

ここでは、本研究の成果と今後の課題について述べている。成果としては、兵庫教育大学の実地教育科目を事例に、教員養成スタンダードに基づく実習到達規準の策定とその適用によって、得意分野を持つ個性豊かな教員の資質能力形成としての、社会教育施設での自然体験活動への観察参加実習の成果と課題を明らかにするとともに、養成段階での教員として最小限必要な資質能力形成が、各実地教育科目でどの程度到達できているのかを実習生に評価させ、各実地教育科目の成果と課題を明らかにしたことである。兵庫教育大学の実地教育科目は両方の資質能力形成が可能な教育実習カリキュラムになっており、それを可能にしているのは2年次の社会教育施設での自然体験活動への観察参加実習が、両方の資質能力形成に有効に寄与していることによることを明らかにしている。

## 2 審査経過

今日わが国の社会のグローバル化等の大きな変化によって、学校教育の複雑で困難な諸課題に対応できるためには、教員の資質能力の向上を効果的に図ることができる教員養成と教師教育の仕組みや方法が求められているが、別惣氏の提出した本学位論文における諸研究は、氏の勤務する兵庫教育大学の学校教育研究センターにおいて学部学生の4年間の実地教育科目（教育実習）Ⅰ～Ⅷの内に実地教育Ⅱの社会教育施設における自然体験活動を配置していることが、学生の教員志望に積極的な寄与をなすことを学生による自己評価システムを開発することによって明らかにしている。また、養成段階で学生が身につける必要のある教員としての資質能力を各実習において学生が自己評価を行うために教員養成スタンダードを開発して学生による自己評価と自然体験活動を組み込んだ実地教育カリキュラムが得意分野を持つ個性豊かな教員の資質形成という課題と教員として最小限必要な資質能力の形成の双方に効果的な意義を持つことを明らかにしている。

審査においては、①得意分野、個性を持った教員を養成するにあたって、2年次に事前指導として社会教育施設での観察・参加実習を経験させることが教員としての資質能力形成にどのような効果があるのか、また、自然体験活動の指導に求められる教員の資質能力を形成する上でどのような実習カリキュラムが必要になるのか。②教員養成の質保証の観点から、養成段階で身につけるべき教員として最小限必要な資質能力を教員養成スタンダードとして同定し、1～4年次までの実地教育科目を通して実習生にその資質能力がどの程度身につけているのかを評価することによって、実地教育科目の成果と課題を明らかにすることができるか等について質疑が行われ、別惣氏はいずれにも適切に回答し、学校教育の諸課題に適切に対応できる教員を養成し、今後予想される複雑な諸課題の解決に取り組む実践的指導力と課題解決力を有する教員を育成する教師教育に寄与しうる研究であることが認められ、特に科学的な手続きを踏んだ、教員養成と教師教育における評価システムの開発は、研究の独創性と社会的貢献の両面において優れた研究であることが確認された。

## 3 審査結果

以上により、本審査委員会は 別惣淳二氏の提出した学位論文が博士(学校教育学)の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。